ニヨリ明カナル處今回一月一日ニ變更シタルハ全ク突然ノ決定ニシテ「メーズ」ノ如キハ往電公第一二七九號ノ手前進ンテ商務官ニ内報シ來リ又張福運モ堀内ニ對シ實ハ昨日突然宋部長ヨリ一月一日ニ決定ノ旨承知セリト話シ居タル位ナリ斯ノ如ク新税率ノ實施期ヲ早メタルハ實ハ政府ニ於テハ一月一日ヨリ釐金廢止ヲ斷行スルコトトシ統一税消費税モ亦種々ノ曲折ヲ經タル後釐金廢止保障ノ爲一月一日ヨリ實行スルコトニ決シタル處我方當業者側ハ統一税ハ輸入税ト均衡ヲ保ツヘキモノニシテ之ト同時ニ實施セラルヘキモノナレハ輸入税ノ實施以前ニ之カ實施ヲ認ムル要無シトノ態度ヲ執リタルカ右ハ本件急速實施ニ變更ノ一理由ニ非スヤトモ認メラル何等御參考迄

付　綿糸統一税問題

357　昭和5年1月24日　幣原外務大臣より　在中国重光臨時代理公使宛（電報）

綿糸統一税導入の場合輸入税に上乗せして課税するや否や確認回電方訓令

本　省　1月24日発

公第一一號（極秘、至急）

貴電公第四八號ニ關シ綿糸統一税ハ内國品ニ對シ一割ヲ課スル場合ニハ外國品ニ對シテハ輸入税ノ外輸入税ト右統一税トノ差額卽チ輸入税ヲ七分五厘トスレハ二分五厘ノ統一税ヲ賦課スルノ意ナリヤ或ハ輸入税ノ外更ニ内國品ト同樣一割ノ統一税ヲ課スルノ意ナリヤ右ハ前者ノ意味ナルヘシト推セラルルモ爲念御確メノ上回電アリタシ

358　昭和5年1月(25)日　在中国重光臨時代理公使より　幣原外務大臣宛（電報）

綿糸統一税は関税の他に内地産品と同一額を賦課するものとの宋子文の説明について

上　海　発
本　省　1月25日前着

公第六五號（大至急、極秘）

貴電公第一一號ニ關シ

二十四日宋ニ直接確メタル所ニ依レハ輸入綿糸ニ對シテハ關税ノ外ニ内地産品ト同一額ノ統一税ヲ課スル次第ニテ外國品ハ關税ヲ拂ヒタル上ニテ國内品トナルモノニ付其ノ上ニテ内國品ト全ク一樣ニ課税セムトスルモノナリト說明セリ尙宋ハ右ハ船津ニ於テ再度モ歸朝シ當業者並ニ政府ニ說明シタル由ナレハ東京方面ニテハ其ノ事情ヲ充分諒解シ居ラルル筈ナリト思フト述ヘタリ右ハ從來ノ船津ノ說明トハ聊カ異ナル點モアルヤニ思考セラルルニ付更ニ研究スヘキモ不取敢

359　昭和5年1月29日　幣原外務大臣より　在中国重光臨時代理公使宛（電報）

綿糸統一税に対する中国側留保は内地通過税廃止に関する取極の趣旨より反対故内地課税問題は後日に譲り当業者の私的契約の範疇で

交渉方訓令

本省　1月29日発

公第五六號（極秘、大至急）

貴電公第九一號ニ關シ

輸入綿絲統一税ニ關スル貴電公第九五號支那側提案ノ留保條項ハ綿絲ノ税率協定乃至内地通過税廢止ニ關スル取極ノ主旨ニ反スルノミナラス我ガ對支輸出品中綿絲ノミニ對シ如此特税ノ賦課ヲ認ムルコトハ政府トシテ國内ニ對スル關係甚タ面白カラサルモノアリ殊ニ本件ハ新ニ支那ノ内地課税權ヲ承認スルノ結果トナリ従テ法權問題トモ密接ノ關係ヲ有スル次第ナルニ付我方トシテハ關税條約締結ニ當リ一般内地課税問題ニ迄「コムミツト」スルコトハ之ヲ避クルニ努メ度従テ矢張リ往電公第二一號申進ノ通リ一般課税問題トシテ後日一般條約商議ノ場合ニ讓ルノ立場ヲ固持シ置タシ就テハ貴官ハ支那側ニ對シ本件統一税ハ輸入品ヨリモ寧ロ關税條約ノ範圍外タル支那内地生産品ニ關スル問題ニシテ内地課税ノ問題ヲ論議スルコトトナレハ條約論トシテモ彼我ノ主張ニ相違アリテ容易ニ纒マリ難ク結局關税條約妥結ノ目的ヲモ達シ難キコトトナルヘキ旨ヲ説示セラルルト共ニ實ハ我方ニ於テハ本件統一税徴收カ在支機業者ニ及ホス影響極メテ大ナルモノアルニモ不拘支那側ノ立場ヲモ考慮ノ上且又其納付方ニ付支那機業家及外國機業家ト均等ノ待遇ヲ受クル限支那政府ヨリ諸般ノ保護及便宜ノ代償トシテ當業者ガ支那當局ト適當ノ私的契約ヲ締結シ一定ノ金額ヲ納付スルコトニハ何等異議無ク現ニ當業者側モ近ク支那當局卽宋子文ト具体的交渉ヲ進ムルコトトナリ居レリト諒解スルニ付此際論議ヲ滋クシテ事態ヲ紛糾セシムルヨリモ支那側財政上ノ目的ハ右私的契約ニ於テモ達成シ得ルニアラスヤト説明セラレ出來得ル限リ今回ノ交渉ニ於テハ輸入品ニ觸レサルコトトシテ解決スル樣御取計アリ度ク尚來ルヘキ一般條約改正交渉ニ當リテハ我方ニ於テモ本件輸入品ニ對スル内地統一税賦課ニ付十分好意的考量ヲ加フルノ用意アル旨此際併セテ言明セラレ差支無シ尚又前記當業者側ノ意嚮ニ就テハ支那側ニ説明ニ先チ貴地ニ於テ船津其他ニ付當方ノ諒解通ナルヤノ點爲念御確メアリタシ

360

昭和5年2月8日　幣原外務大臣より在中国重光臨時代理公使宛（電報）

内外差別の撤廃および財政部と当業者間の契約とする事で輸入綿糸の付加税徴收を容認するもなるべく中国内国課税権問題を棚上げして交渉方訓令

本省　2月8日後8時20分発

公第九三號（極秘、至急）

貴電公第一四一號ニ關シ

綿糸統一税ニ關スル支那側留保ニ對スル我方ノ立場ハ往電公第五六號ノ通ナルカ本問題ハ宋子文從來ノ主張ニモアリ且之カ爲關税取極ノ成立ヲ遅延セシムルモ大局上望マシカラサルニ付此際ノ解決策トシテハ我方ハ内地課税問題ニ關スル我方ノ立場ヲ支那側ヲシテ出來ル丈尊重セシムルコトトシ㈠内地品ニ對スル綿糸統一税ノ税額ハ我在支紡績業者代表ト財政部トノ協議ニ依リ協定スルコト㈡綿糸統一税徴收ニ就テハ支那人紡績業者及在支英國人紡績業者ト我紡績業者トノ間ニ差別待遇ヲ爲ササルコトヲ條件トシ在支那（邦カ）人工場ヨリ一定額ヲ徴收スルコトヲ容認スルト共ニ輸入綿糸ニ對シテモ輸入税ノ外ニ前記ノ額ヲ超エサル範圍内ノ統一税ノ附加徴收ヲ容認スルコトト致度就テハ右ノ趣旨ニ依リ宋ト可然應酬セラレ支那側ノ附屬税率表附記ノ留保ハ大体其儘之ヲ認ムル代リニ今後綿糸ノ内地統一税賦課ノ場合ハ前記ノ二條件ニ依ルベキ旨ノ支那側ノ約言ヲ何等カノ形式ニ依ル文書（先方ニ於テ强テ希望スルニ於テハ公表セサルコトトスルモ差支ナシ）ニ於テ取付オカレタシ尚輸入綿糸ニ付テモ之ニ附加スル統一税ハ内國品ニ對スル統一税ノ額ヲ超エサルコト及外國品トノ差別待遇ヲ爲ササルコトノ約言ヲ併セ取付オカレタシ尚本件ニ關スル宋ト當業者トノ交渉ノ經過ニモ徵シ宋ハ右程度ノ取極ニテ滿足スルモノト思考スルモ前記㈠ノ條件ニ付宋ニ於テ强テ異存アルニ於テハ第二案トシテ我在支紡績業者ノ負擔能力ニ重大ナル影響アル如キ徴收額ヲ支那側ニ於テ勝手ニ決定セラルルコトヲ避ケ度キ趣旨丈ケハ確約シオキタキニ付我在支紡績企業ノ收益的經營ヲ事實上不可能ナラシムルコトアルヘキ税額ノ賦課ヲ爲ササルヘキ旨ノ保障ヲ文書ニテ前記㈡ノ條件及輸入綿糸ニ關スル條件ト併セ取付オカレタシ尤モ貴電公第九五號支那側提案中ニハ excise tax ナル字句ヲ使用シ本件課税納付濟ノ輸入綿糸カ抵代税其ノ他一切ノ内地課（ママ）金ヲ免除セラルルモノナルヤ必スシモ明瞭ナラサル所右ハ從來支那

側カ我當業者ニ内示セル統一税ニ關スル契約草案中ニモ常ニ consolidated tax ナル字句ヲ使用シオル關係上輸入綿糸ノ場合モ爾後一切ノ内地税ヲ免除セラルヘキモノト解セラルルニ付此點爲念御確メノ上成ルヘクハ前記支那側留保案文モ其意味ヲ明ニスル爲 excise tax ノ代リニ consolidated tax ノ文字ヲ入ルルコトト致シタシ尚又前記我方ノ第二案ニ依リ本問題ヲ妥結スル場合ハ結局我國ハ綿糸ニ關スル限完全ニ支那ノ内國課税權ヲ認ムルコトトナリ現行條約ノ重要ナル一點ヲ修正シタル結果トナル次第ニ付成ルヘクハ第一案ニテ妥結スル様御盡力アリタシ

361 昭和5年2月15日　幣原外務大臣より在中国重光臨時代理公使宛（電報）

綿糸統一税交渉に武居委員長参加を希望かつ日本側官憲より同税契約了承の趣旨を財政部に伝達方懇望について

本省　2月15日発

第(公欠カ)一〇八號

往電公第九三號ニ關シ

在華紡績ノ武居委員長十二日來省シ在華紡績トシテハ愈統一税ニ關スル財政部トノ契約締結ニ決定シ契約案商議ノ爲武居ハ二月末迄ニ貴地ニ出張シ船津ト共ニ交渉ノ任ニ當ル筈ナル旨申出タルニ付右ハ此際適當ノ措置ナルヘク當省トシテモ異存ナキ旨申聞ケオキタリ尚其際武居ハ自分等ノ私的契約タケニテハ實行力乏シキ懸念アルニ付我官憲ニ於テモ右私的契約ヲ認メオレル趣旨ノ意思表示ヲ財政部ニ對シ爲シテ貰ヘハ甚好都合ナリト懇望シタルニ付通商局長ヨリ實ハ未タ自分限ノ私案ナカラ其懸念アル爲統一税額ノ決定ハ財政部長ト在支紡績代表間ノ協議ニ依ルコト及内外人無差別待遇ノ二事丈ハ今後適當ノ機會ニ公式ニ支那側ノ約言ヲ取付タキ所存ナルカ未タ其機會ナキ爲其儘ニナリオル次第ナリトテ何等條約交渉ニハ觸レス答ヘオキタリ尚局長ヨリ財政部トノ契約締結ニ決定ノ次第ハ我方ヨリ必要ニ應シ財政部長ニ確言シテ差支ナキヤト質シタルニ武居ハ何等差支ナシト申居タリ尚又右契約成立ノ上當業者側ヨリ要求アラハ貴官ニ於テ契約書ニ認證ヲ與ヘラレ差支ナシ

362 昭和5年2月⒅日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

綿糸統一税問題には深入りせず輸入綿糸に対する中国側留保承認方に関し請訓

上　海　発
本　省　2月18日後着

公第二二五號（極秘）

貴[1]電公第九三號ニ關シ

一、綿絲統一税賦課ニ關スル支那側ノ留保ヲ認ムルニ際シ輸入綿ニ對スルト同時ニ内國製綿絲ニ對スル統一税ノ賦課ヲ認メ之ニ對シ支那側ヲシテ文書ニ依リ貴電御來示ノ二條件ヲ約セシメムトスル時ハ支那側ニ於テモ或ハ例ノ通商條約無效論ヲ理由トシ又ハ通商條約屬(附屬カ)附議定書第三條ノ規定ヲ引用シ（客年貴電第四(編注一)八七號我方カ最惠國待遇等ニ依リ該規定ノ適用ヲ受ケサル點ニ付テハ相當ノ議論アルヘキコト御承知ノ通ナリ）テ其ノ課税權ヲ主張シ平等條約締結ヲ目的トスル交渉ニ之等文書ニ依ル約束ヲナスコトハ峻拒スヘキコト明カニシテ從來宋子文モ本件統一税ハ勝手ニ課シ得ルモノナルヘク事柄ヲ圓滿ニ進行セシムルカ爲當業者ト協議スル次第ナリト述ヘ居ル有様ニテ從テ此ノ際右支那側ノ留保ハ單ニ輸入綿絲ノミニ對スルモノトシ卽チ本協定ニ於テハ内國品ニ對スル課税權ノ問題ニ觸ルルコトナク此ノ問題ハ客年貴電第四(編注二)八六號ノ御方針ノ如ク表面上ハ飽迄モ當業者ト財政部長トノ協議ニ委ネ一旦兩者協議ノ既成事實成立ノ上ハ官憲ハ裏面ヨリ然ルヘク指導援助ヲ與フル立前トスルコトトシタシ

二、[2]之ヲ實際上ノ問題トシテ見ルニ貴電御來示内國産綿糸ニ對スル二條件中㈠税率ノ問題ハ今囘ノ協定ニ於テ綿布ノ税率ヲ現行税率ヨリ二分五厘增トスル次第ナルヲ以テ支那側ニ於テハ國内ノ輿論等モアリ之以上甚タシク高率ノ統一税ヲ課シ得サルモノト思考セラル㈡内外人均等待遇ニ付テハ一般條約ニ於テ規定スル譯ナルカ前記統一税ニ對スル當業者ノ交渉ヲ指導スル際或ハ好機會ヲ得レハ此ノ點ヲ明カニシ置クコトモ有リ得ヘク

三、將又本件留保ヲ輸入綿糸ニ對スル内國課税權ノ承認トシテ取扱フ場合ニハ貴電御來示ノ輸入品ニ對スル諸條件中㈠税率カ内國品及第三國輸入品ニ比シ高率ナラサ

ルヘシトノ保障ハ本件協定ニ採用スヘキ最恵國待遇第二項ニ依リ充分ニシテ(二)其ノ税率カ高率トナルコトヲ防止スル點ハ前顯ノ如ク内國品ニ對スル税率カ甚タシク高率トナラサル限リ右(一)ノ保障ニテ充分ナルヘシト考ヘラル

四、右ノ事情ニ鑑ミ十七日宋トノ會談ニ際シテモ往電公第二二一號ノ如ク本件ニ付深入ヲ避ケタル次第ナルカ本件協定ノ圓滿妥結ヲ計ルカ爲メ統一税ニ關スル支那側留保ハ單ニ其ノ輸入綿糸ニ對スルモノナルコトヲ明カニシテ之ヲ承認スルコトト致シタキ處右ニ對シ何等御意見アラハ折返シ御回示ヲ請フ

編注一 『日本外交文書』昭和期I第一部第三巻691文書別電参照。

編注二 『日本外交文書』昭和期I第一部第三巻691文書参照。

---

363 昭和5年2月19日 在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

綿糸統一税問題を関税協定交渉から切離し表面的には当業者をして自発的に交渉方意見具申

上海 2月19日後発
本省 2月19日後着

公第二二二號（極秘）

貴電公第一〇八號ニ關シ

二月十五日發内地電報ハ武居カ今回ノ關税交渉ト關聯スル綿糸統一税ニ付支那側ト交渉ヲ爲ス爲不日來滬スヘキ旨ヲ報シ居リ支那側ノ注意ヲ牽キ居ル處今後武居其ノ他ノ者ヨリ財政部トノ協議ニ際シ政府ノ後援ヲ仄メカス意味合等ニテ我方ニ於テ税額及内外品無差別待遇ノ二點ヲ支那側ニ約束セシムル方針ナル旨ヲ話ス様ノ事アリテハ却テ拙ク本官トシテハ裏面ヨリ指導援助スルニ止メ表面ハ飽ク迄モ當業者ノ自發的協議トセシメラレ度ク又往電公第二二一號宋ニ對スル話合ノ次第モアリ當業者ノ交渉ハ成ルヘク中心トナル者（例ヘハ船津）ニ一任シ口ヲ多クセサル様致シ度ク當業者ニハ適宜御申聞ケ相成度ク右爲念申進ス

---

364 昭和5年3月29日 在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

綿糸統一税問題に対しては交渉を急ぐ必要ない旨当業者に注意喚起について

上海 3月29日後発
本省 3月29日後着

公第三六五號

貴電公第一〇八號ニ關シ

統一税ノ問題ニ付テハ先般武居、岡田來支ノ節本件從來ノ經緯及當業者提案ノ内容等詳細説明ノ上此ノ際直ニ會談シタシトノ意見ヲ述ヘ又今之ヲ持出ス方關税交渉特ニ税率ノ決定ニモ好影響ヲ及ホスヘシト話シタルカ當方ハ恰モ關税協定モ既ニ事實上出來上リ居タル際ニテモアリ當業者側ニテ餘リ急クコトハ却テ統一税ノ交渉ニ不利益ヲ來スヘキ事情ヲモ考量シ且又支那側ニ於テハ内政關係ヨリ容易ニ本件實行ノ準備進捗セサルヘキヲ思ヒ武居等ニ對シテハ關税協定ヲ假調印スルコトニ決リタル後ニ至リ（脱）スルヲ可トスル旨ヲ説示シ且前記提案ノ内容及交渉方法等ニ付指示シ置キタル結果武居ハ去ル十日日本側ノ案ヲ支那側ニ提出シ先方ニ於テハ目下研究中ニシテ近ク船津青島ヨリ歸滬ノ上交渉ヲ進ムルコトトナリ居ル次第ナルカ其ノ際本官ハ必要ニ應シ側面ヨリ指導乃至援助スルコトニ致シ居レリ

---

365 昭和5年4月11日 武居（綾蔵）在華日本紡績同業会委員長より幣原外務大臣宛

謝作楷との会談において中国側意見が多少変化したる旨船津よりの電報について

（4月14日接受）

昭和五年四月十一日

在華日本紡績同業會
委員長　武居　綾藏［印］

外務大臣
幣原　喜重郎殿

拜啓愈御清祥奉賀候陳者目下支那國民政府ト當會トノ間ニ接衝中ノ統一税問題ニ就テハ御省ニ於テモ豫テ種々御高配相賜ハリ居リ候段奉深謝候　本件ニ付去ル八日附ヲ以テ在上海當會船津總務ヨリ別紙ノ通リ來電ニ接シ候ニ就キ御參考迄御移牒申上候間御閲覽被成下度本件ニ就テハ今後共御高配ノ程願上候

尚小生過般渡支致シ本件ニ付支那側ト種々接衝致シ候ニ就テハ近日中御省ニ出頭御報告旁得貴意度存候得共不取敢右

來電御通報申上候間右ニテ大要御承知相成候様願上候
此段御通知迄申上度如斯候　敬具

（別　紙）

四月八日上海本部發電

統一税問題ニ關シ其後謝氏ト三回ニ亘リ意見ヲ交換シタル處大体ハ三月十日謝氏カ自身ノ意見トシテ述ベタル處ト大差ナキモ多少變化シタル處アルニ付其大要ヲ列記スレバ左ノ如シ

一、契約ノ形式ハ最早形勢ノ變化ニ伴ヒ不可能ナリ結局法令ノ形式ヲ取ルニ至ルベシ
二、俵建ヲ變更シテ擔建トスルコト
三、課税率ハ是非二十三番手ヲ境トシ二種ニ分ツコト
四、綿布ニ對シテハ原絲ニ課税スルコト
五、南京政府勢力範圍外ニ移出スル物ニ對シテモ一律課税シ拂戻ノ責任ヲ負ハザルコト
六、スタンプニヨラスパス式ニヨルコト
七、統一税ニ關スル限リ斷ジテ差別的取扱ヲナサヾルモ奬勵或ハ補助ニ關シテハ本税ノ範圍外ナルヲ以テ何等拘束ヲ課スルコト困難ナリ
八、統一税ノ實行期限ハ無期限ナルコト
九、本税實施期日ハ發布後一ケ月トスルコト

右ニ關シ此方ハ
一、ハ飽迄契約ノ形式ヲ主張シ
三、ハ此レ又飽迄一律ヲ主張シ
五、ハ非常ニ不合理ナルヲ指摘シオケリ
先方モ内心ハ其不合理ヲ認メ居ルモノヽ如シ

其他ノ各條ハ出來ル丈ケ此方ノ最初ノ希望ヲ實現スル様努力シオルモ或ハ或ル程度迄譲歩スル外ナカルベキカト思フ
尚最重要ナル税率ノ點ニ關シテハ今日迄双方熱心（?）ニ議論ヲ闘ハシタルモ互ニ探リ合ニ留リ結局新課税率ノ公表サルヽ迄ハ具体的數字ヲ基礎トシテ討議スルコト能ハズ従ツテソレ迄ハ何等具体的ニ進捗ヲ見ルコト困難ナルベシト思フ、何レ二三日中宋財政部長ト會見スル筈ナルニ付其時何等カ目度ヲ附ケルコト出來ルナラント思フ。船津

以上

366

昭和5年4月14日　武居在華日本紡績同業会委員長より武富（敏彦）通商局長宛

綿糸統一税に関し宋子文との会談につき船津総務報告

昭和五年四月十四日

在華日本紡績同業會
委員長　武居　綾藏［印］

外務省通商局長
武富　敏彦殿

拜啓愈御清祥奉賀候陳者去ル十一日附ヲ以テ統一税問題ニ關スル當會着電ニ付御通報申上置候處其後別紙來電ニ接シ候間御閲覧被成下度此段御通知迄申上度如斯候

敬具

（別　紙）

四月十一日上海本部發電

昨日宋財政部長ト會見統一税問題ニ關シ約一時間餘ニ亘リ意見ヲ交換シタルガ宋部長モ矢張リ謝ト同一意見ヲ繰返シタルニ付當方モ從來ノ主張ヲ詳細説明シ且四月八日拙電中第一ノ如キハ現ニ英米煙草會社ニ對シテ實行シ又第五ノ如キモ英米煙草會社ニ對シテ拂戻ノ義務ヲ認メ居ラルニモ拘ハラズ紡績ニ對シ此レヲ拒絶セラルヽハ甚タ不公平ナリト云ハザルヲ得ズト反駁シタル處一、ニ對シテハ英米煙草會社トノ協定モ本年十二月ヲ以テ期限滿了スルニ付其後ハ矢張リ紡績ニ對スルト同一措置ヲトル積ナリ、第三、ハ日本側主張ハ一應尤モナルモ細糸ノ消費者ハ比較的資産階級ニ屬スルヲ以テ其負擔ニ耐ヘ得ルモノト信ズ又第五、ハ不合理ナルヲ認ムルモ目下支那政府財政窮乏ノ折柄少シニテヒ（モカ）歳入ノ增加ヲ計ル見地ヨリ止ムヲ得サル措置ナルコトヲ諒トセラレタシ、兎ニ角當方説明ノ各項ニ付今一度篤ト研究ノ上重ネテ相談スヘシト云ヘリ

尚本税實施ニ六ケ月ノ猶豫期間ヲ置ク如キハ到底承認出來ザル理由トシテ關税サヘ此クノ如キ長期ノ猶豫ヲ與ヘザルニアラズヤ又買手ノ負擔ニ屬スルヲ以テ紡績側ニテ彼此反對スル必要ナカルベシ殊ニ本問題ノ提出以後已ニ七ケ月以上モ經過シ此ノ上延引スルコト能ハズトテ當方ガ殊更ニ本問題解決ヲ今日迄延引セシメタル如キロ（吻欠カ）ヲ洩ラシタルニ付本問題ハ紡績業ニトリテハ極メテ重大問題ナルヲ以テ愼

重調査ヲ行ヒタルハ青島勞資問題發生ノ爲日本側代表ガ不在ナリシ爲ニテ決シテ故意ニ延引シタ次第ニ非ザル旨説明シ置ケリ、委細郵便

（船津）

以上

367　昭和5年4月16日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

綿糸統一税に関し国民政府側の保証が必要また交渉にあたっては船津に全権を集中させるべきことについて

上　海　4月16日後発
本　省　4月16日後着

公第四〇〇號

往[1]電公第三六五號ニ關シ

生産税問題ニ關シテハ引續キ紡績側ト支那側トノ間ニ話合ヲ續ケ最近數回ノ交渉ニ於テ支那側ハ㈠此ノ種ノ課税ハ支那政府當然ノ權利トシテ一方的ノ意思表示トシ度クB、A、T、ニ對シテモ今年限リニテ同樣ノ取扱ヒヲナス筈ニ付日本側トノ關係ニ於テモ當業者トノ私的契約ニ替ヘ法令ノ形式トシタキコト㈡税率ハ二十三番手ニ依リ二部ニ分チ且我方腹案（未タ先方ニ提示セス）ニ比シ甚タ高率トセルコト㈢南京政府ノ勢力範圍内ニ移出ノ後二重ニ課税サレタルモノニ對スル「レファンド」ノ制度ハ認メ難キコト㈣統一税自體ニ關スル内外人製造品ノ間ノ無差別待遇ハ之ヲ認ムルモ奬勵金補助金等ニ付テハ之ヲ認メ難キコト等支那側最初ノ提案トハ稍趣ヲ異ニスル態度ニ出テ右ハ其ノ後ノ異ナリタル事態ニ適應セントスル趣旨ニテ已ムヲ得サル變更ナリト説明シ居ルトノ事ニテ各項目ニ關スル詳細ノ理由ハ省略ス）右數次ノ交渉ニ於テ以上ノ諸點ノ全部ニ亘リ議論シ日本側ヨリハ船津岡田其ノ他出席シ支那側ヨリハ謝作相（楷カ）主トシテ交渉ノ任ニ當リタルモ中途宋財政部長モ日本側ノ希望ニ依リ参加ノコトトナリ

議[2]論ノ結果双方ノ主張モ右ノ如ク大分開アル旨ノ報告ニ接シ且ツ財政部長ハ右交渉ノ結果ニ基キ十四日南京ニ赴キ政府及黨部ノ必要ナル機關ニ附議スル處アルヘキ旨申シ居リタリトノコトナリシニ付本官ハ十四日朝來船津ヲ招致シ本件ハ支那政府一方的措置ニ出ツヘキ性質ノモノニアラス是非合意ノ上ノ契約ノ形ニナス必要アリ右ハ支那側ニ於テB・

A・T・トノ間ニ既ニ認メ且ツ支那最初ノ提案ニ明示シアル處ニシテ又差別待遇ヲ行ハサルハ當然ノコトナルノミナラス「レファンド」ノ義務ハ苟クモ中央政府トシテノ當然ノ義務ナルヘキニ付之等ノ三原則ハ「レート」ノ問題ニ入ルノ前提事項ニシテ右ノ次第ヲ支那側ニ強ク主張スルノ必要アルヲ詳細ニ亘リテ指示シ且ツ宋子文カ南京ニ於テ萬一前記ノ諸點ニ付政府部内ノ議ニ附シ拘束サルルカ如キコトアラハ其ノ後之ヲ動カスコト極メテ困難ナレハ其ノ出發前ニ右諸點ヲ説得シ置クヘキ旨ヲ告ケ其ノ結果必要ニ依リテハ本官ヨリモ口添スヘシト述ヘ船津ハ其ノ通ニスル筈ナリ尚當業者ノ交渉方法ニ付テモ船津岡田外二名ノ當業者ニテ宋及謝ト會議ヲ開キ互ニ議論ヲ重ネ居ル狀態ニテ

右[3]ハ船津トシテハ無理カラヌコトニシテ且支那側ニ對シ當業者ノ意向ヲ充分知ラシメ置ク趣旨ハ尤モナルモ右ハ支那側ニ乘スル機會ヲ與フルト同時ニ（宋ハ先日本官ニ對シ日本側ハ何人カ中心人物ナルヤ不明ニシテ交渉上不便鮮カラスト述ヘタルコトアリ其ノ際本官ハ船津カ當然其ノ全權ヲ有スル次第ヲ告ケタルコトアリテ其ノ點ハ當時船津ニ注意セリ（此ノ點往電公第二二二號末段御參照））宋子文ト謝トヲ同席セシメテ議論ヲ重ネルカ如キハ宋ヲシテ最強硬論ニ自分ヲ拘束スルコトトナルノ嫌アルニ付旁船津ニ對シテハ原則的ノ大綱ノ決定ニハ船津一人ニテ宋ト懇談ヲ遂ケ之カ協定ノ後専門家ヲシテ數字的ノ審議ヲ行ハシムルコトトスル方可ナリト説示シ置キ船津モ之ヲ充分諒トシタリ我當業者カ何人カヲ代表トシテ之ニ全權ヲ與ヘ（裏面ニ於テ右代表ニ意見ヲ述フルハ固ヨリ別問題）充分確乎タル統一的態度ヲ以テ支那側ニ臨ムノ要アルハ本官初ヨリ之ヲ認メ過日武居氏來滬ノ際ニモ此ノ點ヲ先ツ確カメタル次第ナルモ此ノ點ニ對シテハ常ニ當業者ニ注意ヲ與ヘラルルノ要アリト思考ス

368　昭和5年4月16日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

宋子文は錦糸統一税につき内外差別をしない旨船津に談話について

上　海　4月16日後発
本　省　4月16日後着

公第四〇一號

往電公第四〇〇號ニ關シ

十四日午后船津宋子文ト會見ノ上同電(一)(三)及(四)ノ原則ニ關シ本官ヨリ説示ノ趣旨ニ依リ説得シタル結果宋ヨリ(一)ニ付テハ契約ノ形トスヘキモ本年十二月B、A、T契約満期ノ上ハ之ヲ法令ノ形トシタキ意向ナルニ付其ノ節ハ本件契約ヲモ法令ノ形トスヘキ旨支那側ヨリ留保スルコトト致シタク(三)ニ付テハ「レファンド」ヲ認ムル様政府部内ノ同意ヲ得ルニ力ムヘク(四)ニ付テハ統一税ニ付差別待遇ヲ為ササルニ異存ナキモ奬勵金補助金等ノコトハ本件トハ別問題ナルニ付到底之ヲ承諾シ難キモ支那側トシテ明カニ事實上ノ差別待遇ヲ與フル意思ナキコトヲ述ヘタルニ付船津ハ之ヲ聞キ置キテ引取リタル趣ナリ

尚船津ニ對シテハ前記(一)ニ關シ支那側ノ欲スル留保ハ目下ノ條約交渉ニ依リ自然ニ解決スル迄ハB、A、Tノ態度如何ニ拘ラス之ヲ承認シ難キ筋合ナレハ支那側ノ主張ヲ承認スル限リニ非サル旨ヲ注意シ置ケリ

369 昭和5年4月28日 在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛（電報）

綿糸統一税については税率と形式が問題なるも日中双方折合う趣旨で交渉進行方宋子文との会談について

上海 4月28日前発
本省 4月28日後着

公第四二〇號

二十六日宋財政部長ト會談ノ際生産税問題交渉ハ如何ニナリ居ルヤト質問シタルニ同部長ハ基礎的ノ諸問題ニ付テハ大體意見ノ一致ヲ見タルカ未タ「レート」ノ問題ニ付意見一致セス支那側ハ一「ピクル」五弗ヲ要求シ居リ高率ニアラスト思考スルモ日本側ハ之ニ對シテ對案ヲ提出セサル次第ナリ又基礎的問題中當業者ト取極ノ形トスルコトハ支那側ニ於テ相當反對意見アリ政府カ當業者ト徴税ノコトニ付テ契約ヲナスハ如何ニモ變態ニシテBAT及「スタンダード」等モ本年限リニテ契約ヲ終リ法令ノ適用ヲナス筈ニナリ居レリ從テ夫レ迄ノ期間ハ契約ノ形トスルモ異議ナキコトニ船津トモ話合タリトテ往電公第四一二號船津報告ト同趣旨ノ話ヲナシタルカ本官ハ之ニ對シ本問題ニ對シテハ一體支那側ハ主義ノ問題ヲ解決セントスル趣旨ナリヤ又ハ財政收入ヲ目的トスルモノナリヤ自分ノ觀ル處ニテハ支那政府ハ實質ヲ重ンセラルルコトト考ヘ居ル處日本政府ハ支那トノ條約改正ニ付テハ鋭意其ノ歩ヲ進メ居ル次第ニテ又生産税ノ問題ニ付テモ日本當業者ハ出來得ル丈ケ支那側ニ好意ヲ表シ居ル譯ナレハ此ノ際徒ニ形式ノ問題ニ捉ハルルハ一考ヲ要ス形式ノ問題ハ條約改正ノ完成ト共ニ自然解決セラルヘキ性質ノモノナルニ付餘リニ主義上ノ問題ヲ持出サス自然ニ解決スヘキ時機ヲ俟ツコト可然又實質上ノ「レート」ノ問題モ專門家ノ意見ヲ尊重シ産業ノ發達ニ致命傷ヲ與フルカ如キコトナキ程度ニナルヘク漸進的溫和主義ニ出テラレ謂ハハ双方トモ不満ヲ感スル程度ニ折合ハルルコト可ナラム右ハ支那側ノ信用ヲ增シ双方ノ感情ヲ融和シ更ニ他ノ大ナル利益ニ向ヒテ進ミ得ル道程ナルヘシト述ヘタル處宋ハ右ノ點ハ良ク了解セリ自分トシテハ全然同感ナルニ付成ルヘク其ノ趣旨ニテ進ムコトトスヘキニ付御安心アリタシト所感ヲ述ヘ居タリ

370 昭和5年7月4日 在華日本紡績同業会より 在中国重光臨時代理公使宛

不当課税の実例たる浙江省永嘉県綢布同業公会来状につき報告

昭和五年七月四日

在華日本紡績同業會

重光代理公使閣下

不當課税問題ニ關スル件

謹啓陳者曩キニ湖北省、山東省ニ於ケル當地日本紡績製品ノ單一税（Excise）納付濟貨物ニ對スル不當課税ニツキ報告致置候處、今回更ニ浙江省ニ於テモ同様不當課税ノ實例有之別紙甲號ノ浙江省永嘉縣綢布同業公會ノ來狀豊田紡績、日華紡織ニ於テソレゾレ接到致候之レニ依テ見ルニ先般申上候財政部ニ一種特別ノ手續ヲ經タルモノ以外ハ徴税セラレ居ル趣キニ有之候

關務署長ノ言ニ依ルニ財政部ニ於テハ内地機械製品特別取扱規定（Chinese machine-made yarn or cloth having paid excise is to be free of export duty export surtax, Coast Trade duty, and Consumption Tax. This excise is to be collected through the Imperial maritime Customs. The same principle and procedure are to be applied to all other products of foreign type turned out machinery,

whether by foreigners at the open ports or by Chinese anywhere in China) 以外特別ノ規定手續ナク随テ單一税納付貨物ハ再度課税セラル丶理由ナシ若シ課税セラル丶ガ如キ事アラバ地方徴税吏ノ誤解ニ付實例ヲ示サレタク誤謬ハ取消サシムベシトノ事ニ有之候(ママ)」

右永嘉綢布同業公會ノ書面ハ外商三新紗廠、怡和紗廠ヘモ參リ居リ候由ニテ先方ヨリモ別紙乙號(編注)ノ通リ通知有之候就テハ三新 A.J.Hughes 怡和 Mcnicol R.J. トモ相談ノ上共同ニテ財政部ヘ右不當課税抗議矯正方交渉スル事ニ致シ居リ候

右事情御參考迄一應御報告申上候　　敬　具

公　函

永嘉縣綢布同業公會公函第(四字分アキ)號逕啓者窃敝會前准浙江全省布類統捐第六區分局（以下簡稱布局）函略開各廠廠布業經呈准經過第一關完税沿途概免税捐者已奉財政廳發下免捐各廠號一覽表凡屬表内所載各廠免捐餘須一律完捐敝會查閲表載僅有振泰、永安、大豐、慶記、勤豐、五和、華東、申新、勝徳、三星、三友、義華祥、天瑞、中華震寰、等十四家而貴廠未有列入殊深詫異査敝埠同業向貴廠配辦貨色進口歷來免捐今布局驟更向例執財廳命令勒捐影響所及馴至全埠商人對於貴廠貨品因捐税阻碍裹足不前窃思貴廠規模宏大籌畫周詳斷無不向政府請准沿途概免税捐之理但敝埠商人未明貴廠底蘊無可執證理論倘貴廠已向國民政府工商部及財政部核准註冊允予免捐懇祈火速檢據呈請財政部轉令浙江財政廳飭布局知照毎毋淂妄行留難致碍國貨銷行並祈先將註册情形示復作向布局辯論根據至紐公誼此致

豊　田　布　廠　　　　永嘉綢布同業公會

中華民國十九年六月廿四日

編　注　別紙乙号見当らず。

371　昭和5年7月14日　船津(辰一郎)在華日本紡績同業会総務より在中国重光臨時代理公使宛

湖北省における不当課税に関し張関務処長に抗議について

寫─商務官。委員長。在華各社

昭和五年七月十四日　　　　船津　辰一郎

重光代理公使閣下

不當課税ニ關スル件

拜啓　陳者不當課税問題ニ關シ兼テ得貴意置候通リ怡和紗廠ノ代表**マクニコル**氏、三新紗廠ノ代表**ヒウス**氏ト相談ノ上去ル八日三人同道關務署(処カ)張氏ニ面會シ曩キニ湖北ニ於テ特殊免税單ヲ有スルモノハ厘金ノ徴收ヲ免レ、最近又別紙(省略)寫眞ノ如キ孔工商部長ノ發給スル證明ヲ添付シ免税ノ差別的特權ヲ享有スル華商アル事ヲ指摘シタルニ張署(処カ)長ハ夫レハ不都合ナルヲ以テ一々其事實ニ基キ書面ニテ抗議セラルレバ夫々訓令ヲ發スベシト答ヘ更ニ「**マクニコル**」氏ヨリ夫レヨリモ單一税ヲ納付セル棉製品ニ對シテハ如何ナル名義ノ課税ヲモ禁止スル旨各税局ニ一般的訓令ヲ發セラレタシト述ベ小生等モ之ニ贊同致置候而シテ小生ハ去ル九日別紙ノ通リ證據寫眞相添ヘ抗議的書面差出置候間左樣御含置被下度奉願候　此段報告旁得貴意候　　敬具

372　昭和5年12月17日　田辺(輝雄)日華紡織株式会社社長談

国民政府側は来年三月一日より綿糸統一税実施の予定並びに同税賦課は当業者との契約の形式をとる模様について

綿糸統一税ニ付テ（五・一二・一七）

数日前上京シタル田辺日華紡織株式会社々長ノ談左ノ通リ本年十一月初宋子文代表者謝ヨリ在華紡績船津総務ニ対シ日本側ノ回答督促アリ依テ船津ヨリ我方最後案トシテ統一税ノ額ヲ一担二弗二十五仙トシテ契約締結方ヲ回答セリ之ニ対シ財政部側ニテハ右ノ額ニテハイカヌトハ云ハサルモ間接ニ英支紡績方面ニ宣傳シ最低三弗五十仙ト称シ居レリ、一方民国側ニテハ新輸入税率ヲ二月一日ヨリ実施シ三月一日ヨリ統一税ヲ実施スヘシト傳ヘラル丶ヲ以テ自分（田辺）等ノ推測ニテハ本年内ニハ統一税問題ヲ片付ケル意向ナルヘシ尤モ統一税ノ額カ幾何トナルヘキヤ不明ナルモ日華双方ノ主張ヲ折衷シ二弗二十五仙ト三弗五十仙トノ中間或ル程度ノ所マテ歩ミ寄ルモノトモ思ハル、右税額ハ三十二番手以下ニ対スルモノニシテ三十二番手以上ニ対シテハ財政部側ハ五弗ト云ヒ居ルカ如シ即チ綿糸ヲ三十二番ニテ二種ニ分チ細糸ト中糸トノ税率ヲ定ムルコト丶ナルヘシ右税率ハ大体現在ノ單一税ノ倍額又ハ倍額ヨリハ稍多クナルモノ

ト思ハル、輸入綿糸ニ対シテハ輸入税ノ外内国産品ト同額ノ統一税ヲ課スル訳ナリ　目下ノ形勢ニテハ統一税賦課ハ法律ニ依ラス当業者トノ契約ノ形式ヲ取ル模様ナリ、船津ハ本件解決ノ上多分上京スヘシ（民国側ニテハ本件税率ヲ金貨ニテ定ムル意向ナルカ如シ）

373　昭和5年12月18日　幣原外務大臣より在中国重光臨時代理公使宛（電報）

在華日本紡績同業会等より鉄道運賃差別につき請願あり王外交部長に対し内外差別撤廃交渉尽力方訓令

付記一　十二月十三日付在華日本紡績同業会武居委員長より幣原外務大臣宛
鉄道運賃差別撤廃交渉方請願

二　十二月十五日付阿部（房次郎）大日本紡績連合会委員長より幣原外務大臣宛
鉄道運賃等内外差別撤廃交渉方請願

三　十二月十八日付田島（勝太郎）商工次官より永井外務次官宛五貿第八九三号公信
「膠済鉄道ニ於ケル貨物運賃差別待遇ニ関スル件」

四　通(編注)商局第一課
「膠済線ニ於ケル外国品運賃差別待遇ニ関シ抗議ノ件」

本　省　12月18日後8時25分発

公第四五八號

十五日阿部房次郎並ニ貴地岡田、田邊来省膠濟鉄道ニ於テハ従来外國綿布ハ中國製品ノ負擔セサル貨捐、貨物ノ両税ヲ課セラレタル外ニ今回ノ運賃差別待遇ニ因リ中國製品ヨリモ約七割高ノ運賃ヲ支拂ヒ其ノ結果前記両税ト合シ中國製品ニ比シ約四、五倍ヲ負擔スルコト丶ナル譯ナル處本邦當業者トシテハ中國製品ト均シク右様ノ負擔ヲナスコトハ支那側財政上ノ都合ヲモ推察シ必シモ不満ヲ述フル次第ニハ非ルモ唯中國製品ト差別的ニ過大ノ負擔ニ任スルコトハ營業上到底忍ヒ難キ次第ニテセメテ鉄道運賃ノ差別待遇丈ニテモ之カ撤廢方ヲ切望スル旨縷々陳述シタル上右運賃差別撤廢方ニ関スル請願書ヲ提出セリ尚日本燐寸工業組合ヨリモ同趣旨ノ請願書接到セリ

本件ニ関シテハ王部長ニ於テ貴官ニ対シ盡力方累次言質ヲ与ヘ居ル次第アリ尚鉄道部側ニテハ本件ヲ全國鉄道運賃會議ニ付議シ之ヲ解決スル意嚮ナルヤノ趣ナル処右運賃會議愈〻来ル一月十五日南京ニ於テ開催セラルヘキニモ鑑ミ此ノ際王部長ノ切実ナル注意ヲ喚起セラレ差別待遇撤廃方極力御努力アリ度シ

青島、北平、奉天、天津、吉林、長春、濟南へ轉電セリ

本電南京へ轉電シ漢口及上海へ暗送アリ度シ

（付記一）

昭和五年十二月十三日

在華日本紡績同業會
委員長　武居　綾藏［印］

外務大臣
男爵　幣原　喜重郎閣下

拜啓陳者中華民國山東省ニ於ケル膠濟鐵道ハ曩ニ貨物運賃規定ニ變更ヲ加ヘ去ル十一月一日以降外國製品及外國資本中國製品ト中國製品トノ間ニ運賃上ノ甚シキ差別待遇ヲ設ケ當會員等ノ迷惑重大ナルニ付キ過般在上海當會船津總務理事ヨリ再度重光代理公使ニ對シ右差別待遇撤廢方支那政府ニ交渉相成度旨陳情致置候處本件ハ當會員ニ取リテハ頗ル重大ナル影響ヲ與ヘ居候ニ付重ネテ茲ニ陳情申上候次第ニ御座候

今回ノ改正運賃規定ニヨル綿布運賃ハ青島濟南間中國品壹屯ニ付洋銀七、五五元ニ對シ外國品ハ一二、八三元ニシテ七割増シニ有之候而シテ青島並ニ上海ニ於ケル在華日本人紡績製ノ綿布ハ悉ク外國品同様ニ取扱ハルル事ト相成リ斯カル重大ナル運賃上ノ差別待遇ハ我國紡績業ニ及ボス影響ノ大ナルハ勿論在華邦人經營紡績業ノ進歩ヲ阻害スル事甚大ナルハ申ス迄モ無之儀ニ御座候（一字分アキ）御承知ノ通リ同地方ニ移輸入サルル綿糸布ノ内支那人製品ハ貨物税並ニ貨捐ヲ免除セラルルニ拘ラズ同ジ支那製品ニテモ外國人資本ノ工場ニテ製セラレシ製品ハ單一税納附濟ノモノニ對シテモ右兩税ヲ課サルル今日ニ於テ更ニ前記運賃上ノ差別待遇ヲ設ケラルルハ當業者ニ於テ詢ニ忍ビ難キ所ニ有之候

按ズルニ右ノ如キ差別待遇ハ華府九國條約第五條ニ牴觸スルモノト信ゼラレ候ノミナラズ滬(抗カ)抗鐵道其他ニ於テモ既ニ運賃上ニ差別待遇ヲ爲スモノ有之候様仄聞致居候折柄今日本件ヲ不問ニ附スルニ於テハ更ニ他鐵道ニ於テモ此種ノ差

別待遇ヲ爲スニ至ル惧有之延テハ我對支貿易及ビ中國內ニ於ケル邦人企業ノ盛衰ニ重大ナル影響ヲ及ボスモノト存候間此際御當局ニ於テ御詮議ノ上右膠濟鐵道ニ於ケル運賃ノ差別待遇撤廢方至急支那側ニ御接衝ノ程謹テ奉悃願候

膠濟鐵道ノ差別待遇實例

（靑島—濟南間）（一車貸切一噸當リ）

		運賃	貨捐	貨物税	合計	一俵宛
綿糸	外國品	八、〇九元	六、四七元	一三、〇〇元	二七、五六元	五、五一元
支那製品	外國資本	八、〇九	六、四七	一三、〇〇	二七、五六	五、五一
	支那資本	八、〇九	—	—	八、〇九	一、六二
	一噸差額一九、四七元			一俵差額 三、八九元		
綿布	外國品	一二、八三元	一〇、二六元	一七、三二元	四〇、四一元	九、三三元
支那製品	外国資本	一二、八三	一〇、二六	一七、三二	四〇、四一	八、三三
	支那資本	七、五五	—	—	七、五五	一、七四
	一噸差額三二、八六元			一俵差額 七、五九元		

貨捐ハ 運賃ノ八〇%　一反差額 〇、一九元

貨物税ハ 綿糸 一俵二、六〇元　綿布 一反〇、一〇

十一月以降改訂ノ運賃及從前運賃トノ比較

（一車貸切 靑島—濟南間 一噸宛）

		現運賃	改正運賃	特定運賃
綿糸	中國 外國	四、六一元	一〇、一一六元	八、〇九二八元
綿布	中國	四、八〇元	七、五五元	—
	在支外國人製品及外國品	四、八〇	一二、八三	—

即チ

(一)在支外人工場製

	現運賃	改正運賃	増額	%
綿糸	四、六一元	八、〇九二八元	三、四八二八元	七五、五五
綿布	四、八〇	一二、八三	八、〇三	一六七、三

(二)在支支那人工場製

	現運賃	改正運賃	増額	%
綿糸	四、六一元	八、〇九二八元	三、四八二八元	七五、五五%
綿布	四、八〇	七、五五	二、七五	五七、三

(三)外國製品

	現運賃	改正運賃	増額	%
綿糸	四、六一	八、〇九二八	三、四八二八	七五、五五
綿布	四、八〇	一二、八三	八、〇三	一六七、三

（付記二）

拜啓中華民國山東省膠済鉄道ニテハ今回貨物運賃規定ニ変更ヲ加ヘ去ル十一月一日以降外國製品運賃ト中國製品運賃トノ間ニ甚シキ差別ヲ設ケ其結果綿布運賃ハ青島済南間中國品壹屯ニ付洋銀七、五五元ニ対シ外國品ハ一二、八三元ニシテ後者ハ前者ノ七割増ニ有之彼我綿布ノ対抗上我國ハ大ナル不利ヲ蒙リ候昨年中ノ統計ニヨレバ青島ニ輸入セラレタル綿布総額ハ八百七拾七萬海関両（在上海日本人經營紡績製品ヲ含ム）ニシテ内七百拾壱萬海関両ハ我國ノ輸出綿布ニ有之而シテ其大部分ハ右鐵道ニヨリ内地ニ輸送セラルヽモノナルヲ以テ中外品ニ対スル該運賃ノ差別的取扱ハ本邦紡績業ニ少ナカラザル影響ヲ及ボス次第ニ御座候

御承知ノ通リ同地方ニ移輸入セラルヽ綿糸布ノ内中華民國人製品ハ貨物税及貨捐税ヲ免除セラルヽニ拘ラズ外國品ハ單一税納附済ノモノニ対シテモ右両税ヲ課セラルヽ不當ノ措置ニ暫ク甘ンジツヽアル今日ニ當リ更ニ前記鉄道運賃ノ差別的取扱ヲ受クルコトハ我國當業者ニ於テ詢ニ忍ビ難キ苦痛ニ有之候

元来中華民國鉄道運賃ニ於テ内外品ノ間ニ差別ヲ設クルコトハ華府九國條約第五條ニ牴觸スルモノト愚考罷在候處目下滬杭（杭カ）鉄道其他ニ於テ既ニ此種ノ差別的取扱ヲナスモノ有之候様仄聞致居候ニ就テハ今日尚本件ヲ不問ニ附スルニ於テハ更ニ他鉄道ニ於テモ同様ノ差別的取扱ヲナスニ至ル惧有之事實若シ斯カル場合ニ立至リ候ニ於テハ我國紡績事業ニ及ボス影響極メテ重大ナルノミナラズ此種ノ差別的取扱ハ固ヨリ獨リ綿布ニ限ラズ一般貨物モ亦同様タルベキヲ以テ我國ノ対支貿易ハ之ガ爲メニ重大ナル打擊ヲ蒙ルハ必然ト存候就テハ此際何卒至急御詮議ノ上右膠済鉄道ニ於ケル内外品運賃ノ差別的取扱撤廢方ニ就キ適當ノ方法ヲ講セラレ一ハ又之ニヨリテ將来他鉄道ニ於テ此種ノ不當ナル取扱ヲナサヾル様此機會ニ於テ御配意ノ程悃願ノ至リニ有之此段謹テ及陳情候

敬具

昭和五年十二月十五日

大日本紡績聯合會

委員長　阿部房次郎〔印〕

外務大臣

男爵幣原喜重郎閣下

(付記三)

五貿第八九三號　(12月19日接受)

昭和五年十二月十八日

商工次官　田島　勝太郎〔印〕

外務次官　永井　松三殿

膠濟鐵道ニ於ケル貨物運賃差別待遇ニ關スル件

今回大日本紡績聯合會委員長阿部房次郎ヨリ膠濟鐵道ニ於ケル中華民國產貨物及本邦產貨物等ノ運賃差別待遇撤廢方ニ關シ陳情有之候處右ハ我對支貿易政策上ヨリ見ルモ最モ重大且ツ緊要ナルモノト被存候條貴省ニ於テモ之ガ撤廢方ニ關シ豫テ御配慮ノコトトハ存候得共之ガ差別待遇撤廢方ニ關シ尙一層必要ナル措置ヲ講セラレ度此段申進候也

(付記四)

膠済線ニ於ケル外國品運賃差別待遇ニ關シ抗議ノ件

一、十一月一日ヨリ膠済線ニ於テ實施セントスル旧貨物分等表中内外品間ニ差別運賃ヲ設ケタル貨物三十餘種ノ中主ナルモノニ付其輸入数量及青島ニ於ケル本邦工場ノ投資状態ヲ見ルニ大要別紙ノ如シ

一、右差別運賃ニ關スル抗議方針ニ付在青島川越總領事ヨリ第一案トシテ右差別待遇ガ九国条約ニ違反セル点ヲ指摘シテ其撤廃ヲ要求スルコトトシ萬一支那側ニ於テ應ゼザルニ於テハ第二案トシテ支那側ニ対シ前記分等表ニ於テ内外品ニ依リ差別待遇ヲ爲スコトヲ廃シ製品ノ「精粗ノ差別」ニ依リ運賃ニ差別ヲ設ケ以テ實質的ニ其ノ希望ヲ達スル様爲スヘキ旨勧説スルノ方法ニ依ラムコトヲ禀請シ来レリ

一、乍然右第二案ノ採用ハ考慮ヲ要スヘク即チ「精粗ノ差別」ニ依リ運賃ニ差別ヲ設ケシムルコトニ依ッテ内外品ヲ明示セル差別待遇ヲ幾分ニテモ緩和スル見込アラバ免(兎カ)モ角然ラズシテ條約ノ實質的違反行爲ヲ我方ヨリ支那側ニ勧告スルハ將来甚ダ面白カラサル結果ヲ来スヘシ来ルベキ通商條約ノ改訂ニ於テハ単ニ最恵国待遇及内國民待遇ヲ規定スルニ止ラズ進ンデ實質的内外差別待遇ヲ禁止スルノ條項ヲ設クルコト極メテ必要ナリト思考セラルルヲ以テ右第二案ノ採用ハ之ヲ見合セ第一案ニ依ル抗議其効果ナキニ於テハ其儘形勢ヲ傍観スル方可ナルヘシト思考ス

一、尚別紙「運賃差別待遇ヲ受クヘキ青島輸入外國貨物表」及「青島ニ於ケル本邦各種工場投資額」等ヲ比較考量スルニ精粗ノ別ニ依ル差別待遇ガ内外品ニ依ル差別待遇ニ比シ如何ナル程度ニ我方ニ有利トナルヘキヤ判然セス他方支那側ガ我方ノ抗議ニ拘ラズ豫定ノ通十一月一日ヨリ「旧分等表」ヲ實施スルニ於テハ川越總領事来信中ノ二、ニ記載シアル薩膠済鉄路局委員長ノ言質ヲ楯トシテ青島ニ在ル本邦工場ノ製品ニ付テハ之ヲ支那品ト仝一ニ取扱ハシムル様今後地方的ニ交渉セシムル道モアルヘク右成效スルニ於テハ「精粗品ノ別」ニ依ル差別待遇ヲ採用セシムルヨリモ或ハ有利ナルヘシ

(別　紙)

運賃差別待遇ヲ受クヘキ品目ノ青島輸入額

	容積屯	
曹達灰	四、四五二	一部日本品
薬品類	九六〇	〃
綿布類	三、三九四	半額以上日本品
清酒	二四三	日本品
麦酒	二四二	主ニ日本品
ブランデー	一六	外国品
藍(天然及人造)	二、〇〇〇	〃
棉花	八、六〇〇	〃
紙	九、一四五	大半日本品
葉煙草	五、一四八	一部日本品
石鹼	八	〃
燐寸	一四六	〃
計	二四、三五四	

備考　一、本表ハ一九二九年青島輸入外国品中運賃差別待遇ヲ受クヘキ品目ノ輸入額ヲ摘記シ汽車運送ノ場合ニ於ケル容積屯ニ換算シタルモノナリ

二、本表ハ青島輸入額ヲ示シタルモノナルヲ以テ汽車ニテ内地ニ輸送セラルヽモノハ其ノ一部分ナリ

青島ニ於ケル本邦各種工場投資状況（大正十四年十一

月現在）

	工場數	資本額
一、紡績	六	一八四、七八〇、〇〇〇円
一、織布	二	五、二〇〇、〇〇〇
一、マッチ	四	一、三三八、〇〇〇
一、釀造業	八	四〇、二四五、〇〇〇
一、煙草	一	五〇〇、〇〇〇
一、藥物	四	二五、〇〇〇
一、石鹸	一	六〇、〇〇〇

備考　各工場ノ生産數量ニ付テハ統計不明ナリ

編注　作成年月日不明。

374
昭和5年12月26日　在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

綿糸統一税に関する交渉は相当煮詰りたる状況について

上　海　12月26日前発
本　省　12月26日後着

公第一二七三號（至急）

綿[1]絲統一稅ニ関スル聯合會側ト民國側委員謝作楷トノ交渉ハ最近民國側ニ於テ統稅實施ノ計畫ヲ進メテヨリ相當ノ進捗ヲ見今日ニ於テハ(一)稅率ニ關シ當業者側ニ於テ一担太絲（欄外記入）二元五〇細絲三元ヲ要求スルニ對シ民國側ニ於テ金單位二、五及三、二五ヲ主張シ(二)實施猶豫期間ニ付當業者ハ三ケ月ヲ要求スルニ對シ民國側ハ一ケ月ヲ主張スルヲ除キ其ノ他ノ點ニ付テハ大體意見一致シ居ル次第ナルカ右(一)ニ付テハ當業者ハ大體現行單一稅ノ二倍程度ノ引上ヲ認メ民國側ノ如ク一躍三倍ノ引上ハ事業經營ヲ不能ナラシムト云フニ對シ民國側ハ其ノ主張スル稅率カ綿布ニ對スル新輸入稅ノ引上率ニ及ハサルヲ以テ輸入綿布ニ對シ尚充分ノ保護ヲ受クルコトヲ理由トシテ（綿絲カ日本ヘ逆輸出サレ居ルコト及在支紡績カ世界的不況ニモ拘ラス充分ノ利益ヲ上ケ居ルハ現在不當ナル保護ヲ受ケ居ル證據ナリト述ヘ居レリ）其[2]ノ稅率ヲ固持シ居ル狀態ナルカ當方研究ノ結果右民國側ノ主張ニハ相當數字上ノ根據アルヲ以テ之カ主張ニ付充分ノ確信ヲ有スルモノト認メラレ當業者ニ於テ此ノ際其ノ態度ヲ緩和セサルニ於テハ本官ニ於テ此ノ上内面ヨリ說得ニ

努ムルモ或ハ民國側ハ辛ウシテ承認シタル契約ノ形式ヲ捨テ一方的拋棄（法規カ）ノ形式ニテ本件課稅ヲ强行スルニ至ルヤモ計リ難シト思考セラルルニ付テハ民國側ノ稅率ヲ認ムルモ事業經營上左シタル支障ナカルヘキニ付大體之ヲ認メテ本件ノ妥結ヲ圖ルコト例ヘハ民國側當業者トノ間ノ差別待遇防止等（先方ニ於テハ此ノ點契約上明ニ認ムル望アリ）諸般ノ関係ハ勿論大局上ヨリ見テ寧ロ得策ナリト存セラルルニ付本邦當業者ニ對シ右ノ事情御說示ノ上速ニ本件妥結ヲ計ル様御指示方御配慮ヲ請フ

尚前記(二)實施猶豫期間ニ付テモ當業者ハ在庫品ノ處分ニ必要ナル期間等ヲ基礎トシテ三月ヲ固持シ居ルモ民國側ノ態度ヨリ見テ相當ノ讓歩ヲ要スルモノト考ヘラル

（欄外記入）
在華紡績同業會東京支部井上篤之氏ニ内示シ大阪本部ニ電話ニテ傳達セシメタリ当方ニ於テモ急速妥結ヲ要スト認ムル旨附言シオケリ
二十七日　西

375
昭和5年12月26日　在上海村井（倉松）総領事より幣原外務大臣宛（電報）

綿糸統一税導入に対する中国民族紡側の反対陳情について

上　海　12月26日後発
本　省　12月26日後着

第七三二號

廿五日新聞報道ニ依レハ綿絲統一稅ノ實施ニ關シ當地中國側紡績聯合會ハ廿二日及廿四日附電報ニテ國民政府ニ對シ統一稅ハ現行稅率ノ數倍ニ當ルヲ以テ之カ實施ノ曉ハ停業ノ外ナシ殊ニ外國品ニ寛ニシテ國内品ニ過酷ナルハ帝國主義打倒ノ政策ニモ悖ルニ付當業者協議ノ上何分ノ儀上申スル迄實施猶豫方請願セル趣ナリ

北平、奉天、天津、漢口、南京、青島ヘ轉電シ、代理公使ヘ轉報セリ

376
昭和5年12月27日　幣原外務大臣より在中国重光臨時代理公使宛（電報）

綿糸統一税急速妥協方のため在華紡側に説示

方訓令について

本省　12月27日後10時35分発

公第四七七號

貴電公第一二七三號ニ関シ

本件ハ取急キ解決ヲ要スル時期ニ到達シタルモノト認メラルヽニ付貴電御来示ノ趣旨ハ不取敢本邦當業者ニ説示シ急速妥結方慫慂シ置キタリ

～～～～～～～～～～～～～～

377

昭和5年12月29日　幣原外務大臣より　在中国重光臨時代理公使宛（電報）

武居委員長より船津総務にも至急互譲交渉妥結方を電訓について

本省　12月29日後5時40分発

公第四七八號

往電公第四七七號ニ関シ

其後武居委員長ヨリ船津総理事宛本件至急互譲妥結方電訓シタル趣ナリ

～～～～～～～～～～～～～～

378

昭和5年12月30日　幣原外務大臣より　太田関東長官宛（電報）

錦糸統一税については国民政府が課税強行の恐れもあるため中国側の主張を容れて近く契約締結の運びについて

本省　12月30日後4時25分発

第四八號

貴電第七三号ノ四ニ関シ

綿織糸統一税ニ関スル在支日本紡績同業會ト財政部側トノ交渉ハ本年十月ヨリ再開セラレ最近税率ト実施猶豫期間トノ二点ヲ除イテハ大体意見一致シ当業者側ハ一担太糸二元五〇、細糸三元、三ケ月ノ猶豫期間ヲ要求シ居ルニ対シ民國側ハ夫々金單位二・五及三・二五、猶予期間一ケ月ヲ主張シ居ル次第ナルカ當業者側カ譲歩セサルニ於テハ民國側ハ契約ノ形式ヲ捨テ一方的ニ法律ノ形式ニテ課税ヲ強行スル虞モアリ結局ハ大体民國側ノ主張ヲ認メテ近ク契約締結ノ運ヒトナル模様ナリ右締結ノ上ハ輸入綿織糸ニ対シテモ仝額ノ消費税ヲ課セラルヽニ至ルヘシト予想セラル貴地方紡績業ノ関係モアルニ付右御参考迄

～～～～～～～～～～～～～～

379

昭和5年12月31日　太田関東長官より　幣原外務大臣宛（電報）

綿糸統一税の課税対象地域および徴税機関につき照会

旅順　12月31日後発

本省　12月31日後着

第七五號

貴電第四八號ニ關シ

一、統一税ノ實施ナキ地域ニアリテハ消費税モ免ルルモノナリヤ

二、滿洲及山東省ハ統一税施行地域ナリヤ

三、統一税及消費税ヲ徴收スル機關ハ海關ナリヤ又地方税局ナリヤ

何分ノ儀御回報相煩ハシタシ

～～～～～～～～～～～～～～